



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2008

8月31日号

110
VOL.

発行所 社団法人 福島県放射線技師会

〒960-8003 福島市森合字蒲原16-7 TEL/FAX 024 (559) 1043

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

終戦記念日で思うこと



副会長 鈴木 憲二

今年の8月15日で63回目の終戦記念日を迎える。この頃に生まれた方や終戦当時を覚えて現役で活躍している放射線技師も年々少なくなっている。原子爆弾投下のシーンや戦争当時のことが今の時期になると必ずと言っていいほどテレビや新聞報道で目に付くようになる。このような悲惨な時代を2度と起こさないようにと啓蒙しているようでもある。

被爆国日本として人為的に起こされ、死者を出した原子力事故として思い出されるのは平成11年9月30日に起きた東海村JOC臨界事故である。事故は、製品であるウラン溶液を均質化する工程で発生した。燃料を加工するにあたり、国の管理規定に沿う正規マニュアルではなく「裏マニュアル」を運用しておりステンレス製バケツを用いて、ウラン溶液を溶解槽に移していた。その結果、硝酸ウラニル水溶液を不当に大量に貯蔵した容器の周りにある冷却水が中性子の反射材となって溶液が臨界状態となり、中性子線等が大量に放射された。この事故では3名の作業員が推定1Gr以上の多量の放射線を浴びた。10Grと17Grを被ばくした作業員2名は造血細胞の移植を行ったが亡くなった。

このため平成11年12月に原子力災害対策措置法が制定され、原子力災害時の緊急時対応体制の強化が図られた。緊急被ばく医療に即応するために緊急被ばく医療に関する知識や技術を備えた医療従事者の教育が必要となってくる。

(社)福島県放射線技師会では毎年行われる(財)原子力安全研究協会からの「緊急被ばく医療基礎講座Ⅰ(除染・搬送コース)」「緊急被ばく医療基礎講座Ⅱ(ホールボディーカウンターコース)」を(社)福島県放射線技師会ホームページに掲載して会員に参加要請をしている。特に本県は原子力発電所が新潟県の7基に次ぐ6基所有しており原子力事故を想定した訓練は欠かすことの出来ないものとなっている。

福島県で毎年行われる原子力防災訓練は福島県内の放射線技師が大きな役割を担っており、(社)福島県放射線技師会にも8名の放射線技師要請があり、各支部からの協力のもと実施している。今年は10月下旬に予定されており、緊急被ばく医療の講習会(9月27日双葉厚生病院で開催予定、(社)福島県放射線技師会ホームページ参照)を受講して多くの放射線技師が、原子力防災訓練に参加していただきたい。「鉄は熱いうちに打て」の諺にあるように、今年就職した放射線技師の諸君が講習会を受講し、原子力防災訓練に参加することを特に望みたい。

平成20年度 第1回理事会議事録(抄)

日 時：平成20年6月20日(金) 14：30～

場 所：医大病院放射線部カンファランス室

出席者：片倉会長、鈴木、斎藤副会長、嶋田監事、白川、八巻、今野、長川、山田、富塚、古川、佐藤、遊佐、村上、斎藤(重)理事

欠席者：吉田、新里、馬場、森口理事、伊藤事務局長
議長に鈴木副会長、議事録作成人に斎藤重夫理事を選び議事に入る。

議 題

1) 平成20年度業務予定等

委員会報告 各委員会より報告及び片倉会長の説明。

① 生涯教育委員会

○バーコードリーダについて

- ・説明会を6月13日に実施した。研修会等での運用面は受付を賛助会員に依頼することもある。
- ・利便性を考慮して、浜支部で2台(相双地区といわき地区)設置することになった。PCも含め、予算は県と支部で折半する。
- ・データ管理は生涯教育委員会で行う。また、カード紛失した場合、再発行をする。

② 精度管理委員会

- ・6月26日ビックアイにて開催、研究テーマの福島県内医療機関における「各装置の始業前点検状況調査」を7月中にアンケートを実施するので協力をお願いしたい。

③ 調査委員会

- ・調査表を7月中に送付して、回収をし集計する。

④ 学術委員会

- ・演題募集は9月末までであるので、再度県技ニュースで募集を掲載する。
- ・北関東地域放射線技師学術大会(新潟)10月4、5日開催。演題も募集している。会津支部に協力を依頼される。多数の参加を各施設に要請する。

2) 各種講習会開催

○乳房撮影技術講習 片倉会長より資料説明。8月30,31日に福島県立医科大学附属病院で、技師会と技術学会の共催で実施される。定員50名で申し込み状況は現在34名である。16名の空きがあるので受講希望の方がいれば、各施設で勧誘して頂きたい。

3) 平成20年度日本放射線技師会総会報告

遊佐理事より資料説明

○事業報告について

- ・ADセミナーは20年度末までに50%が目標でeランニングに移行
- ・修士、博士(高学歴を増やしたい鈴鹿の社会人向けコース)
- ・技師法(放射線技師試験から放射線技師国家試験にしたい)

<日放技総会の主な質問>

質問：会費納入について4月納入になったので、2年度分を一括でなく分割納入を認めてほしい。

A：分割は考えていないし、現在60%が納入済みである。

質問：専門認定等が病院長宛に出しているのが、自治体宛にも出してほしい。

A：厚労省が民間認定のものを認めるのは難しい。

質問：鈴鹿大学で臨床実習の学生に照射行為をさせた。(指導者が付いていたらしい)

A：免許の無い学生が照射行為をする事は出来ない。(厚労省)

○19年度庶務・事業・決算・監査報告が承認された。

質問：臨床実習指導者の更新について

A：院内教育もカウントされるので更新に利用して頂きたい。(学生に限らない)同じ放射線技師に対する院内教育でも可能。

質問：ADセミナーの地方開催について可能性は？

A：eランニングに進むので、それに対応してもらいたい。

○20年度事業計画案・予算案・公益社団法人移行の為の定款改正・教育センター取り扱いについて承認された。

○役員選挙 中日本地域(定数2)井戸靖司、松倉昭芳が当選。

○役員信任投票結果211名の2分の1は106票(106票以上は落選)に該当する役員はいなかったため各役員は信任された。

○熊谷会長が辞めた理由

老眼が進み、眼鏡をかけないと資料が見えなくなった。任期は10年としているが、自分が会長に就任した時に何時辞めるか考えていた。やっても2期か3期だと考えていた。

以上の説明の後、片倉会長より補足説明があった。

・八巻理事より、今年度の会費納入は何時ころまでがリミットか？

今年度に関しては9月末まで納入可である。

4) 平成20年度日本放射線技師会会長会議報告

6月8日に日放技事務所にて会長会議が開催された。片倉会長より資料説明

①平成20,21年度役員は 会長 北村善明

副会長 播間利光、阿部一之

②平成20年度第24回学術大会(札幌)について

事前予約が少ないので、早めをお願いしたい。演題は270題で座長、シンポ等は全て決定した。

③平成21年度第25回学術大会(鹿児島)

札幌大会終了後に実行委員会を立ち上げる。

④平成22年度第26回学術大会(東京)

本部主導で開催する。会場は未定 7月予定。

⑤その他

日放技の入退会、移転の事務手続きは、各県技師会を通して行う。

5) その他

○県総会議事録について

第61回(平成20年度)(社)福島県放射線技師会総会議事録が、事務局より上がって来たので、議事録の誤字、脱字、訂正をして承認された。

○表彰者の申請

- ・叙勲(役員歴20年の実績で推薦)今年度該当なし
- ・県知事表彰(役員歴15年の実績で推薦)

各支部で該当者を人選する。今年度は該当なし

○カード再発行の手数料は

郵送の場合は、郵送料は各自負担でお願いします。
講習会参加時に手渡しする。

以上、全ての議題が理事会で承認され閉会した。

平成20年度 放射線技師学術大会の開催について

県学術大会実行委員長 新里 昌一

11月2日(日)に県立福島医科大学大講堂において開催します。恒例のランチョンセミナーは、今年も第一三共製薬との共催で弁当・飲み物付きで行う予定です。まだ講演名は不明ですが、講演を北海道社会保険病院の山口隆義氏にお願いしました。

今年から演題申込みが、ホームページから簡単に出来るようになりました。皆さんからの日頃の工夫や研究をまとめて発表しませんか? 演題を大募集していますので、宜しくお願いします。

大会運営は、学術委員を中心に医大の多大な協力を含めた精鋭会員が準備を進めて行います。実行委員長の勇み足等は多々ありますが、心より皆様多数のご参加をお待ち申し上げております。

なお、大会プログラムが皆様のお手元に届くのは、10月末を予定しています。

大会事務局 〒963-8558 郡山市2-5-20

太田西ノ内病院放射線部内

実行委員長 新里昌一

TEL 024(925)1188 (内線)31265

持館氏受章祝賀会開かれる

平成20年度春の叙勲において、瑞宝双光章を受章された持館博志氏の受章祝賀会が平成20年7月5日に相馬市松川浦の「はやしや旅館」において開催された。

浜通り支部の主催で開かれたこの祝賀会には、持館氏と親交の深い70名を超える参加者が集まり、県技師会からも多くの会員が参加した。

長川副支部長の司会で進行し、支部長の発起人挨拶の後、片倉会長の祝辞、伊藤事務局長の功績披露があり、本人の謝辞では持館先生の人柄がにじみ出るような言葉で、多くの

人への感謝の気持ちが述べられた。

公立相馬病院栗田技師長の乾杯で祝宴に入り、相馬ならではの豊富な海の幸とお国自慢の民謡も飛びだし、祝賀会はローカル色にあふれ、華やかに進行した。

夕方の開催のため、宿泊での参加者も多く、2次会、3次会と遅くまで祝宴が続いた。

尚この席上で、持館先生より福島県放射線技師会と福島県放射線技師会浜通り支部に寄付がなされた、ありがとうございました。

人事異動 新入会(つづき)

和田 かおり	大原総合病院
高橋 良英	大原医療センター
濱尾 直美	県立医大附属病院
金澤 崇史	県立医大附属病院
— 転 入 —	
鴻池由香利	総合南東北病院
大槻 かおり	公立藤田総合病院

人事異動 新入会 (H20.8.20 現在)

添田 美幸	塙厚生病院
芳賀 正雄	公立相馬総合病院
菊池奈緒子	竹田総合病院
佐々木清光	竹田総合病院
玉川 邦明	鹿島厚生病院
田中 諒介	大原医療センター
白石あゆみ	谷病院
堀川 博充	大町病院
館山 朋幸	大町病院
三瓶 弘美	大町病院
加藤 裕之	竹田総合病院
高木 清	今村病院

県北支部

福島県医用デジタル通信技術研究会の開催

第11回福島県医用デジタル通信技術研究会の講演会が8月23日(土)15:30より杉妻会館で開催された。

1、「液晶モニターの基本技術と医用液晶モニターの品質管理」

(株)ナナオ マーケティング部商品技術課

森脇 浩史 先生

2、「フィルムレス化に向けて」～PACSの構築と問題点～
富士フィルムメディカル(株)東北地区営業本部

島津 誠司 先生

終了後、県北支部暑気払いが行われ22名の出席で懇親を深めた。

県南支部

県南支部サマーセミナー開催

去るH20年7月26日に、県南支部恒例のサマーセミナーがビックアイ7階にて、PM2:30から開催されました。セミナーに先立ち支部会長の吉田氏より挨拶を頂きました。

今回の診療報酬改正により益々進むであろう「フィルムレス」をテーマに、講演1は富士フィルムメディカル島津氏より「フィルムレス運用のためのPACSシステム構築について」講演2は㈱ナナオ森脇氏より「液晶モニタの基本技術と医用液晶モニタの品質管理」の演題で講演をして頂きました。フィルムレスに伴って院内ネットワークの整備等、好むと好まざると、知識が有る無しに関わらず携わらなければならない事が多い放射線技師として今から準備しておく事は重要な事であり、基本的な事をベースにかみ砕いて解説して頂きながら、さらに最新情報も紹介して頂きました。関心の高さからか50名の参加を見ました。島津氏からは 1) 画像診断関連の20年度診療報酬改正 2) PACSシステム導入のコスト 3) PACSシステム導入効果 4) システム導入の手順と、かなり幅広い内容にて解説して頂きました。森脇氏からは 1) 液晶モニタの構造と原理 2) 医用液晶モニタのカタログ記載値 3) 液晶モニタの品質管理 4) 医用モニタガイドラインの内容で解説され、実際のモニタの展開モデルを会場に展示して頂き説明をもらいました。特にモニタの品質管理に関して、会場からかなり質問もされ関心の高さを感じられました。セミナー後は会場を移し、メーカーの方々にも参加して頂き、厚生部の楽しい企画を交えながら、またアルコールを交えながら話は夜遅くまで尽きなかったようです。



(幕田)

会津支部

乳癌検診研修会の開催

7月24日(木)、山鹿クリニック2Fにおきまして、平成20年度乳癌検診研修会が開催されました。

この研修会は、会津若松医師会が主催となり、会津地区乳癌検診合同委員会が中心となっており、会津地区全域から医師・診療放射線技師・看護師など職種を越えた研修会として、毎年多くの方が参加しています。今年度は、福島県立医大名誉教授であられます阿部力哉先生にご講演をしていただきました。

今回の講演では、マンモグラフィ併用検診の精度向上のためと言うことで、福島市の乳癌検診を例にして話が進んでいきました。その中で、乳癌検診受診率と乳癌発見率という部分に触れて、「以前行われていた視触診のみの検診では、受診率は高かったが発見率が非常に低

かった。マンモグラフィが検診に導入されてからは発見率が大きく上がったが、受診率が低くなってしまった。マンモグラフィの重要性が認められて、多くの医療機関で実施されているが、それでもまだまだ市民に浸透していないのが現状のようだ。」と述べていました。

講演終了後、阿部先生を囲んで懇親会が設けられて、参加した人たちと様々に意見交換をして、和気藹々とした研修会となりました。(森谷)



浜通支部

第4回いわき地区画像研究会開催される

平成20年6月17日(火)18時30分からいわき市立保健センター多目的ホールにおいて第4回いわき地区画像研究会が開催されました。

今回のテーマはいわき市の救急医療についてということで講師にいわき市平消防署 主任主査第一係長 松崎 正先生より「いわき市の救急の現状」、いわき市立総合磐城共立病院 救急救命センター 新谷 睦美 先生より「救命センターにおける画像診断」という演題でご講演を賜りました。

松崎先生からは救急車が現場に到着するまでの時間やその後、受け入れる病院を探すまでの時間や断られた回数など細かいデータを使って解り易く説明がありました。

また、新聞などでも問題になっている救急車のコンビニ利用については救急車の適正利用促進ということで救急車の車体にステッカーを貼り啓蒙活動を行っているとお話がありました。

新谷先生からは救命センターに運ばれてきた患者様がどのように治療を進めていくのかをビデオ撮影したライブ映像を見ながら私達にも解り易く説明をしていただきました。また、X線撮影では胸部のポータブル撮影を例に出され、理想的にはいつも同じ条件、同じ体位で撮影できればちょっとした患者様の変化を見逃すことなく治療が進められるとお話がありました。この話には会場からも意見があり、現実には理想通りに撮影できないファクターがありこれからの課題であると感じました。

(鈴木)

編集後記

何だかよく解らないうちに、日本放射線技師会の会長が変わった。あれほど変わらなかった会長職だが、自らの意志で降板した、願わくは会長だけでなくその体質も一般会員や地方技師会の意見が反映できる様な、オープンな組織に変わって欲しいものである。(八巻)